



2021年度より年2回ニュースレターを発行しています。スタッフ一丸となり、よりよい情報提供や診療を心がけていきたいと思っております。



みなさま、今年も暑い暑い夏がやってきました。こまめな水分摂取と適宜休憩を挟みながら、この夏を乗り切りましょう！

さて、先日『第33回日本乳癌学会学術総会』が東京で開催されました。全国の乳癌診療に携わる医療関係者が一同に集まり、様々な情報が交換されました。年々複雑化する乳癌治療は、コメディカルの協力が不可欠であると痛感しました。また、新たな乳がん検診のひとつとして痛くない検査が考案されました。（下記で紹介いたします）

癌はいつだれがなるかわかりません。検診で早期発見することも大事ですし、なった場合は主治医ときちんと話し合いを重ねて一番自分にあう治療を選択して頂きたいと改めて感じました。

胸を挟まなくてよい!?

非造影MRI乳がん検診（DWIBS法：ドゥイブス法）



『乳がん検診・』と聞くと・・・

**痛い
恥ずかしい**

←こんなイメージがあるかもしれません。確かにマンモグラフィは胸を挟むため多少の痛みを伴います。しかし、最近の装置は乳房に合わせた最適な圧迫を行う機能等がついており、改良されていることも知っておください。

しかし、最近服を着たままでできる乳がん検診が考案されました（保険診療外）

無痛MRI乳がん検診の特徴

- 下シャツを着たままで検査ができます。**
肌を出さなくても乳房の検査ができます。
- 乳房を圧迫しないので痛みはありません。**
痛みに弱い方でも大丈夫です。
- 放射線を使わないので被曝がありません。**
毎年、繰り返し受けても大丈夫です。
- 痛くない**
乳房を圧迫しません。
- 見られない恥ずかしくない**
下シャツを着たままで撮影できます。

『任意型検診』であるため保険診療外となり、検査費が高額という欠点がありますが、造影剤を使用しないためアレルギーの心配がありません。また、被ばくの心配もありません。

当院では導入していませんが、大阪府内で導入している施設が複数あります。乳がん検診だけでなく全身のがん検診としても可能な検査です。ご興味のある方は検索してみてください。

ドゥイブス法 検診

～Time Toxicity（時間毒性）聞いたことありますか??～

これまでは、薬の評価は『主要評価項目 ex)癌が新たにでてくるまでの期間』や『安全性（副作用）』が主でしたが、最近では『QOL(Quality Of Life)：生活の質』も考慮されるようになりました。がん治療のためには、病院に通院しなければいけません。通院すると診療の待ち時間と治療にかかる時間が発生し、その拘束時間が長ければ、自分の時間が少なくなり、QOLの低下につながる可能性があります。そこで、薬剤形態が変化した薬をご紹介します。

トラスツマブ
ペルツマブ

フェスゴ

初回 8分以上
2回目以降 5分以上

ジーラスタ

ジーラスタボディーポット

翌日以降に投与する皮下注射を皮下に装着して帰宅することで、翌日以降の外来受診がなくなる

点滴から皮下注射に変更することで病院の滞在時間を短縮

※必ずしも薬剤変更した方がよいわけではありません